59

59期リレーエッセイ

# 海事事件専門の事務所で

会員　福田 実主

## 「怪事」事務所？

私の所属する事務所は海事事件専門の事務所です。

このエッセイを読んでくださっている方は，文字でどんな専門分野かお分かりになるでしょうが，口頭の場合そう簡単にはいきません。「海事事件を専門に扱っています」と話すと，必ず不思議そうな顔をされ「随分大変な仕事をなさっているのですね…」等と言われます。「そうですね，海についてはこれまで門外漢でしたので，一から勉強しなければいけないのは大変ですね」という私の返答を聞いて漸く，「あっ！ そっちの海事ですか。いやーてっきり奇怪な事件ばかりを扱う事務所かと思って随分変わった事務所で働いていらっしゃるのだなと…」という会話をこの短期間に何度交わしたことか。学習の賜物で，最近では「Marine専門の事務所です」と説明するようになりました。

## NICHE & GLOBAL

Marine関係の仕事ということは分かっても，具体的にどんな仕事をしているのか知っている方は少ないのではないでしょうか。それもそのはず。海事は本当に狭い業界です。例えば，船舶衝突事故1つをとっても，船主，傭船主，荷主，各種保険会社，Surveyor，Salvage会社などなど，登場人物（利害関係人）は非常に多岐にわたりますが，それぞれ過去に一度も関わりがなくても互いを見聞きして知っているというどこか村社会的な雰囲気があります。

このようなニッチ産業に特化する弁護士も当然少ないもので，右肩上がりに法曹人口が増加している現在ですら，日本の海事弁護士（海事専門の弁護士）は50人にも満たないのですから，いかにニッチな分野かは分かっていただけると思います。

もっとも，海事の面白いところは世界基準で物事が動いているところです。私の働く事務所が外航船をよく扱うからでしょうが，1つの事件について，海難審判は日本，民事事件はロンドンArbitration，刑事事件はまた別の国…などということは当たり前。契約書のフォームは国際条約を基準としていることも多く，判例も日本の判例だけでなくアメリカ，イギリスの判例を調べたりします。これまで日本法しか勉強してきていない私にとっては，今までにない視点や発想を学ぶことが多く，非常に刺激的で面白い業界です。

## スローライフときどき出張

ミクロな視点に変えて，普段の私の弁護士業務について少し書きたいと思います。同期の友人と話をすると，帰宅するのは10時過ぎが当たり前という人が多いですし，中には体が持たなくて事務所徒歩5分圏内にマンションを借りたという人もいますが，なんと私の事務所は（飲み会のない限り）大抵7時には事務所に誰もいないことが多いです。土日も基本はお休みできます。

もっとも，日中の忙しさはかなりのものです。私の事務所は海外の保険会社の代理人をすることが多く，毎日何十通ものe-mail（当然，英語）が送られてきます。その中には“URGENT”というタイトルの下に過酷な要求をするメールが必ず数通含まれています。

また，船舶の衝突や座礁，船舶arrestがあった次の日には予定していなかった出張が決定しパソコンを持って全国各地の港へ2，3日旅立つなんてこともざらにあります。出張の時はハードです。弁護士になって3週間目に急遽小樽出張が決まったことがありましたが，丸3日間朝から晩まで札幌・小樽を奔走しました。その時は，中国船にたった1人で（中国語の通訳さんを連れて）乗り込み，二等航海士から陳述書を取るという貴重な経験をさせてもらいました。

まだまだ，手探り状態の毎日ですが，面白くてパワフルなボスと，頼りになる兄弁達と，それから海のエキスパートの元キャプテン達から沢山のことを学んで一人前の海事弁護士になりたいと思います。